

農畜産物販売高292億円 過去最高更新 J A十勝清水町

2019年6月8日

J A十勝清水町（串田雅樹組合長、正組合員445人）の通常総会が6日、町中央公民館で開かれた。2018年度の農畜産物販売高は292億6100万円で、過去最高だった前年度を2.1%上回った。

農産物の販売高は、記録的な豊作だった前年度に比べ12.2%減の59億1400万円。天候不順の影響で小麦が10アール当たり収量、品質ともに平年を大きく下回り、豆類やジャガイモも天候の影響を受けた。一方、ビートは10アール当たり収量、糖分ともに平年を上回った。アスパラは生産量が前年度比5割増、ハクサイ、ブロッコリーは販売環境に恵まれ、野菜全体の販売高は前年度を6.3%上回る7億3800万円だった。

酪農は近年、頭数、1頭当たり乳量ともに増加傾向。昨年度は胆振地震に伴う停電の影響を受けたものの、生乳生産量は13万1644トンで初めて13万トンを突破した。

肉用牛は高値で推移し、畜産物全体の販売高は前年度比9.1%増の233億4700万に。

経常利益は2億6728万円、当期末処分剰余金は2億5850万円。

総会には委任状などを含め360人が出席。今年度も「十勝若牛」や「とれんたんと」をはじめとする同J Aのブランド戦略を進め、農畜産物の販売力強化、付加価値向上に注力する。串田組合長は「組合員のさらなる結集の下、関税撤廃などの難関、課題を打破していきたい」とあいさつした。

取扱高 過去3番目104億円台 小麦、豆類が大幅減 J Aうらほろ

2019年6月10日

J Aうらほろ（馬場幸弘組合長、正組合員279人）の通常総会が7日、町中央公民館で開かれた。2018年度の農畜産物取扱高は過去3番目となる104億7700万円（前年度比6.5%減）となった。

農産物取扱高は同4.3%減の45億2300万円（交付金を含む）だった。6月から7月にかけての低温や長雨の影響で小麦と豆類が大幅に減収した。

生乳生産量は、同1.8%増の3万4389トンと好調を維持。畜産も同0.5%増の59億5400万円と堅調に推移した。当期末処分剰余金は1億6007万円で、0.5%の出資配当

を予定している。

書面などを含め186人が出席。馬場組合長は「行く末には国際貿易交渉があり、市場開放など北海道農業への大きな影響が懸念される。課題克服にはJ Aの結集が最重要であり、十勝、全道、全国へとその輪を広げていくことが必要」とあいさつした。

販売高最高461億円 畜産349億円、畑作補う 18年度 J A士幌町

2019年6月12日

J A士幌町（篠原末治組合長、正組合員646人）は12日に開いた通常総会で、2018年度の農畜産物販売高が、前年度比3.2%増の461億3000万円で、17年度の過去最高額を更新したことを報告した。400億円を突破するのは4年連続。酪農や畜産の販売額が好調に推移し、全体を押し上げた。

酪農は生乳量、販売額とも過去最高。大規模停電や飼料の品質低下の影響が懸念されたが、乳価が上昇した。乳量は4%増の9万3078トン、販売額は5%増の94億円だった。

肉牛は9.4%増の250億4000万円。ブランド牛「しほろ牛」の販促事業を展開し、販売額は好調に推移した。畜産全体では8.2%増の349億4000万円。

畑作は天候不順の影響で10%減の111億9000万円。特にジャガイモは病害などで収量が落ち込み、14.6%減の35億9538万円となった。当期末処分剰余金は13億8578万円。

篠原組合長は「天候不順など厳しい状況の中、過去最高を記録できたのは組合員が力を結集した証し」と述べた。